木城えほんの郷は、この秋
「かがやく年輪 柚木沙弥郎の仕事展」を開催いたします。

柚木沙弥郎さんは、1922 年、東京生まれ。戦後、倉敷の大原美術館に勤め、柳宗悦の民芸運動と出会います。それをきっかけに、後の人間国宝となる染色工芸家・芹沢銈介に師事。20 代半ばから染色家としての道を志し、98 歳の現在に至るまで、日本の型染の第一人者として多彩な創作を続けています。

インドやメキシコ、ヨーロッパなどを旅し、その土地の暮らしの中から生み出された布や玩具、現代美術や自然の生命を体感し、あらゆるものを自身のイメージに昇華する、鮮やかな色彩や幾何学模様の作品を生み出しています。

2014 年にはヨーロッパ最大の東洋美術コレクションを誇る「フランス国立ギメ美術館」に作品 80 点を収蔵。ジャンルを超えた現代アートとして称賛されています。

絵本の仕事では、94 年、型染の絵本『魔法の言葉』を皮切りに、木城えほんの郷の音楽会を題材にした『つきよのおんがくかい』(99 年)など多数あります。

今回は、絵本『ぜつぼうの濁点』(原田宗典 作 2006)と
『せんねん まんねん』(まど・みちお作 2008)の原画、
柚木沙弥郎の木をモチーフにした超最新作をはじめ、
布の仕事も展示いたします。98 歳の現在、
「うれしくなくちゃつまらない」と意欲的に創作を続ける
柚木沙弥郎の世界をお楽しみください。

『ぜつぼうの濁点』(原田宗典 作)
2006、教育画劇
『せんねん まんねん』(まど・みちお作)
2008、理論社
布の仕事/
1950~60 年代の型染めの作品 約 12 点
2020 最新作 1 点